

第1回 都市型水害を踏まえた雨水対策のあり方検討部会 議事要旨

- 1 日 時 令和8年10月5日（月） 10時00分～12時00分
- 2 場 所 千葉市役所高層棟2階 XL 会議室201
- 3 出席者 《委員》5名
森田部会長、丸山副部会長（オンライン参加）、吉田委員、西委員、山縣委員、
- 《事務局》19名
山田建設局長、中臺下水道企画部長、吉井下水道施設部長、
松田下水道経営課長、海保下水道経理課長、菅原下水道営業課長補佐、
鈴木下水道整備課長、森山下水道整備課担当課長、根木雨水対策課長、
林下水道維持課長、久野下水道施設建設課長、森田中央浄化センター所長、
本間南部浄化センター所長、
坂村総合治水課長、竹部総合治水課長補佐、雨水企画班（4名）

4 議 題

- (1) 副部会長の互選について
- (2) 千葉豪雨及びこれまでの雨水対策について
 - ①千葉豪雨の気象状況
 - ②浸水被害の状況
 - ③下水道施設の被害状況
 - ④これまでの雨水対策
 - ⑤今後の検討項目（案）
- (3) 今後のスケジュール

5 議事概要

- (1) 副部会長の互選について
委員の互選により、副部会長に丸山委員が選任された。
- (2) 千葉豪雨及びこれまでの雨水対策について
千葉豪雨の気象状況などについて、事務局から説明を行った。
委員からの主な意見は以下のとおり
 - ①千葉豪雨の気象状況
 - ・千葉市はSNSの情報発信が充実しており、帰宅困難者が情報を得るうえで有効であった。
 - ・下水道管渠内水位の公開は先進的な取り組みであるが、危険な状況が伝わるような工夫が必要。
 - ・千葉豪雨のような雨が今後も発生し得るのかを十分に見極めたうえで、今後の対策を考えていく必要がある。
 - ②浸水被害の状況
 - ・豪雨の中でも移動してしまった人や土地勘のない市外からの来訪者が帰宅困難となったことから、今回の教訓を今後の対策に生かすべきである。
 - ③下水道施設の被害状況
 - ・被災した調整池もあったが、その機能が発揮され、周辺住宅やその下流域の浸水被害軽減に寄与したと考えられる。
 - ・開水路の破損、ポンプ場の浸水は同様の被害が再度発生しないように対策を講じて復旧するべき。

④これまでの雨水対策

- ・貯留機能には限界があるため、排水機能を充実させていくべき。特に、千葉駅周辺の対策として効果があつた中央雨水貯留幹線を好事例としてしっかりと示すべき。
- ・雨水対策に関心を持ってもらうため、住民向けの施設見学会を実施してはどうか。
- ・市の貯留施設に加え、宅地内に雨水貯留・浸透施設を設置し地域全体で流出抑制すべき。

⑤今後の検討項目（案）

- ・河川沿いの浸水被害も多かったことから、千葉県や近隣市と連携し対策を行うべき。
- ・下水道での対応には限界があるため、河川、道路、防災、まちづくりといった横断的な取り組みが必要である。

（３）今後のスケジュール

第２回検討部会（開催予定日：１１月２日（月）１０：００～１２：００）

- ・近年の降雨の検証結果
- ・整備を優先する重点地区の考え方
- ・ソフト対策の強化案 など

第３回検討部会（開催予定日：１１月２７日（金）１０：００～１２：００）

- ・中間とりまとめ ほか

第４回検討部会（１月下旬～２月上旬）

- ・最終とりまとめに向けた検討

第５回検討部会（２月下旬～３月上旬）

- ・最終とりまとめ

問い合わせ先 千葉市建設局下水道企画部総合治水課
TEL ０４３（２４５）５６１３
FAX ０４３（２４５）５５７４